

かどわき やすお
門脇 康夫さん

市内で定年退職したのち、シルバー人材センターの紹介で、作業所での業務に従事する67歳。趣味は休日に奥さんと行く国内旅行で、日本全国を飛び回る。



こえだ まさや
小枝 政哉さん

昨年4月から市内のガソリンスタンドで正社員として働く、車と映画が好きな20歳。忙しい仕事の合間を縫って、今年の実行委員長として尽力。



さかがみ ともこ
坂上 智子さん

スマイルジャパン(女子アイスホッケー日本代表)の一員として、ソチオリンピックでの活躍が期待される30歳。アルバイトを続けていたが、昨年9月に(株)ダイナックスに就職。



定年後も「自分はまだ働ける」という気持ちが強くと、シルバー人材センターに相談し、今の仕事を始めました。定年前は事務職だったので、中腰が多い大変な作業に、最初は体力的に続くかが不安でした。でも、「できるだろう」と紹介してくれた期待に応えたい、という思いで続けるうちに体も慣れ、もう7年経ちました。同年代の仲間たちとの、昼休みの雑談や、たまの飲み会が楽

高校時代にもアルバイトをしていなかったので、働くことにハードルはありませんでした。今は、車の誘導や洗車の補助などをしていきます。最初は筋肉痛になったり、慣れない接客だったり、大変でした。実は僕、接客に苦手意識があったんです。でも、高校の先生に今の仕事を薦められたので、苦手を克服したいというか、少しでも得意になれるようにと始めたんですね。まだ

アイスホッケーを続けている間は環境を変えなくなかったのですが、アルバイト生活だと、道具にかかる費用や、長期合宿による無収入期間などの問題が常になりました。オリンピックという目標が見えてからは、金銭面の心配を解消し、もっと競技に集中したいとの思いがあり、チームメイトに相談しながら就職活動を始め、今の会社に採用してもらいました。

インタビュー

あなたが踏み出した その一歩

子どもの頃からアイスホッケーばかりの生活だったので、社会人としての経験や知識があまり無いという不安がありました。でも、引退後も、ちゃんと社会で働けるようになりたいとの思いで、教えてもらいながら働いています。パソコン作業にも慣れてきたので、社会人として少しずつ成長できているのかな、と感じています。



接客が得意とは言えないけれど、ちょっとした気遣いで「ありがとう」と言ってもらえると、こっちは嬉しくなります。働くってどういうことか考えると難しいけれど、今の自分にとって、新しい自分を見つかる「チャレンジ」の場だと感じています。働くことで、自分のやれることをもっと探していきたいですね。



子どもの頃からアイスホッケーばかりの生活だったので、社会人としての経験や知識があまり無いという不安がありました。でも、引退後も、ちゃんと社会で働けるようになりたいとの思いで、教えてもらいながら働いています。パソコン作業にも慣れてきたので、社会人として少しずつ成長できているのかな、と感じています。



誰もが、「何をしたらいいんだろう」、「どんな仕事なんだろう」など、働くことに不安や迷いを持っています。そんなとき、一人で悩むよりも、誰かに相談することで早く解決する場合があります。様々な角度から意見を聞くことで、仕事や自分のことについての理解が深まります。親や友人など身近な人に相談することも大切ですが、数多くある相談窓口(次ページ参照)を利用するのも良い方法です。相談を通じて自分と向き合い、やりたい仕事や働く目的のヒントを見つけられれば、それが最初の一歩を後押しする力になります。

「ハタラク」人の経験を通して 見えてくるもの
今回、市内で働いている3名の方にインタビューし、今の仕事を始めたきっかけや、働くことに対するそれぞれの思いを教えてくださいました。
将来のことを考え、自分自身を成長させるために就職を決めた坂上さん。苦手な接客に挑戦しながら、自分のやることを探す小枝さん。働くことに感謝の念を抱きながら、いきいきと仕事を続ける門脇さん。違う環境、違う仕事をする中で、皆さんのお話に共通することが3つありました。それは、働くことに対して何らかの不安があったということ。仕事を探す時に誰かに相談したということ。そしてその中で自分の目的を見つけて、働くことに踏み出したということでした。